七条中学校だより１１月3号

京都市立七条中学校
令和8年11月5日
発行：校長 林 秀雄

家庭学習と定期テストに向けて４

なぜ勉強するのか？ 本質を理解する学びへ

定期テストまで残り2週間となりました。これまで学校だよりでは、「努力と成果の関係」「エビングハウスの忘却曲線」「逆算の考え方」「続ける力」「計画的な学習の大切さ」などについて伝えてきました。

先日、『宙わたる教室』のモデルとなった定時制高校の科学部顧問である久好圭治先生の講演に参加しました。その中で、私が最も印象に残ったのは、**「学習とは正解を求めるためだけのものではない」**という考え方です。

私たちはつい、「問題を解くための勉強」「テストで点数を取るための勉強」「正解を覚えるための勉強」になりがちです。しかし、本当に大切なのは、その知識や現象の**本質を理解すること**です。本質を理解するとは、**「なぜそうなるのか」「その根本にはどのような考え方や仕組みがあるのか」**を理解することです。

例えば

●数学なら、公式を覚えて答えを出せることも大切ですが、「なぜその公式が成り立つのか」を理解することが本質です。

●理科なら、「水が100℃で沸騰する」という事実を覚えるだけでなく、「なぜ沸騰するのか」「どのような仕組みでそうなるのか」を考えることが本質です。

●社会なら、歴史上の出来事や年号を覚えるだけでなく、「なぜその出来事が起こったのか」「人々は何を求めていたのか」を考えることが大切です。

●国語なら、漢字や文章を読むだけではなく、「作者は何を伝えたかったのか」「登場人物はなぜそのように行動したのか」を考えることが本当の学びにつながります。

●英語も同じです。単語や文法を覚えるだけでなく、「相手に何を伝えたいのか」「なぜその表現を使うのか」を理解することで、生きた言葉として身についていきます。

講演の中では、科学部の研究についても紹介がありました。ある年の研究テーマは「火星のクレーターの再現」でした。生徒たちは、月や火星の重力環境を再現する装置を自分たちで制作し、火星の土を再現したり、隕石に見立てた物体を衝突させたりしながら研究を進めたそうです。研究発表の際、ある人から「この研究は何の役に立つのですか？」という質問がありました。その時、生徒たちはこう答えたそうです。

「いつか、何かの役に立つかもしれない。今は役に立たなくても、100年後に役に立つかもしれない。」

私はこの言葉に大きな感銘を受けました。皆さんは、アインシュタインという科学者を知っているでしょう。アインシュタインは約120年前に相対性理論を発表しました。当時、その理論を聞いた多くの人は、「何の役に立つのだろう」と思ったかもしれません。しかし現在、その理論はGPSや人工衛星、宇宙開発など、私たちの生活を支える技術の基礎となっています。

アインシュタインは最初からGPSを作ろうとして研究していたわけではありません。彼は、**「なぜそうなるのか」「宇宙や時間の本当の姿はどうなっているのか」**を追究したのです。

つまり、目先の役に立つことや答えを求めたのではなく、本質を理解しようとしたのです。そして、その学びや研究が100年以上の時を経て、人々の生活を支える技術へとつながりました。

皆さんが今取り組んでいる学習も同じです。定期テストで良い点を取ることは大切です。しかし、それだけが目的ではありません。学習とは、本質を理解し、自分で考える力を身に付けることです。これからの社会では、AIなどによって多くの知識をすぐに調べることができます。だからこそ必要なのは、知識の量ではなく、**「なぜだろう？」「本当の原因は何だろう？」「どうすればよいのだろう？」**と問い続ける力です。

今回のテスト勉強でも、ただ問題を解いて終わるのではなく、「なぜこの答えになるのか」「この単元で本当に学ぶべきことは何か」を意識してみてください。今学んでいることが、いつ、どのような形で役に立つのかは誰にも分かりません。しかし、火星の研究に取り組んだ科学部の生徒たちや、アインシュタインの研究がそうであったように、皆さんが今積み重ねている学びも、未来の自分や社会を支える大きな力になるかもしれません。

まずは、日々の授業や家庭学習の中で、「なぜだろう？」という問いを大切にしてください。その問いこそが、本質を理解する学びへの第一歩なのです。

裏へ

興味をもった人へ ～本の紹介～

今回紹介した久好圭治先生の科学部の話や、「なぜ勉強するのか」「学ぶことの本当の意味」について、もっと知りたい人にぜひ読んでほしい本があります。

まず一冊目は、**『宙わたる教室』　伊与原新 著**　です。

定時制高校に集まった様々な事情や背景をもつ生徒たちが、科学部での研究に取り組みながら成長していく物語です。勉強が得意な生徒ばかりが登場するわけではありません。しかし、「なぜだろう？」という問いを大切にしながら、仲間と協力し、失敗を繰り返しながら研究を進めていきます。

この作品を読むと、「勉強ができること」と「学ぶことの面白さ」は必ずしも同じではないことに気づかされます。また、学ぶことの価値はテストの点数だけではないことも教えてくれます。

もう一冊は、**『コズミック・ガール』　伊与原新 著**です。

宇宙や科学を題材にしながら、人が夢や希望をもち、自分の可能性を信じて挑戦する姿が描かれています。科学の知識だけでなく、「なぜ知りたいのか」「なぜ挑戦するのか」という、人が学ぶ根本的な意味について考えさせてくれる作品です。

今回の学校だよりでは、「本質を理解する学習」について書きました。学習とは、正解を覚えることだけではありません。「なぜそうなるのか」「本当はどうなっているのか」「まだ誰も知らないことは何だろう」そんな問いを大切にすることが、本当の学びにつながります。本を読むことも同じです。読書は単に知識を増やすためだけではなく、自分とは違う考え方や生き方に出会い、物事を深く考える力を育ててくれます。

もし今回の話に少しでも興味をもった人は、ぜひ 伊与原新 さんの作品を手に取ってみてください。きっと皆さんの「なぜだろう？」を広げてくれるはずです。